

治山事業におけるコンテナ苗の導入

《治山事業における植栽の課題》

斜面崩壊や荒廃溪流の復旧・予防対策を実施する箇所においては、崩壊対策施設を設置した後に植栽を行うことが多く、植栽適期を逸してしまうことへの対応が課題であった。



《先の課題に対する対応》

裸苗と異なり通年で植栽が行える、コンテナ苗を導入することで、先の課題が解消された。

治山事業においては、平成26年からコンテナ苗による植栽を導入している。



《過去に植栽したコンテナ苗》

荒廃斜面など土壌環境の悪い土地で、且つ、真夏や真冬などに植栽した箇所においても、良好な成長を示している。

植栽当年



植栽2年後

